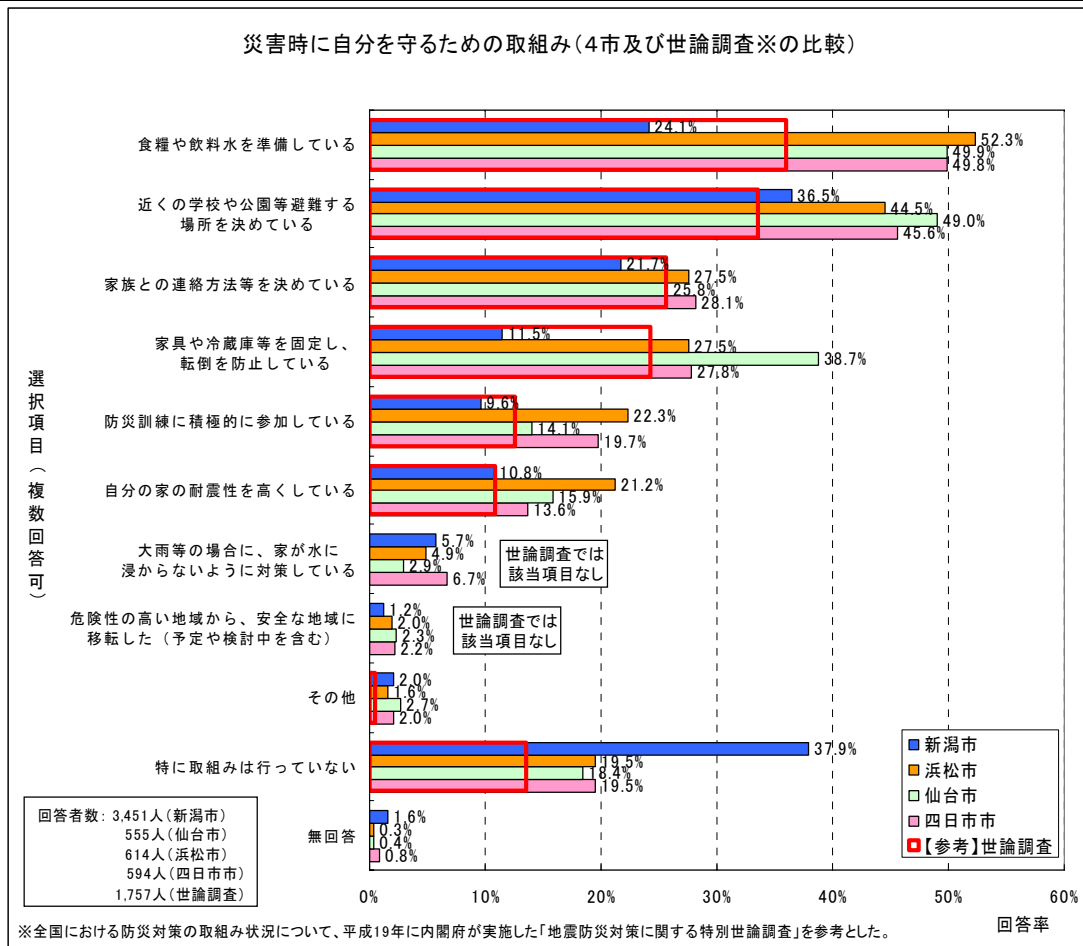


問3.【災害時に自分を守るための取組み】災害時に自分や家族の命を自ら守るために、現在、どのような取組みを行っていますか？（複数回答可）

- ・4市とも「特に取組みを行っていない」とする回答の割合が、内閣府の世論調査結果と比較して高い結果となっている。新潟市では最も多い回答であり、約38%が選択している。
- ・新潟市を除く3市は、その他（食糧の準備・避難場所の決定 等）の取組み状況は、世論調査に比較して全体的に高く、全国的にみて総じて取組み意識が高い市民と考えられる。
- ・新潟市は、「避難場所の決定」以外の項目において、世論調査結果に比較して低い取組み状況である。
- ・新潟市を除く3市に共通して「食料や飲料水を準備」の選択率が最も高く、「近くの学校や公園等、避難する場所を決めている」とする回答が2番目に高い。
- ・仙台市では、「家具や冷蔵庫等の転倒防止」の取組みの割合（38.7%）が、浜松市では、自宅の耐震化の取組みの割合（21.2%）が他の3市および世論調査結果に比較して高い。
- ・浜松市・四日市市は、世論調査と比較して「防災訓練に積極的に参加する」割合が高い。

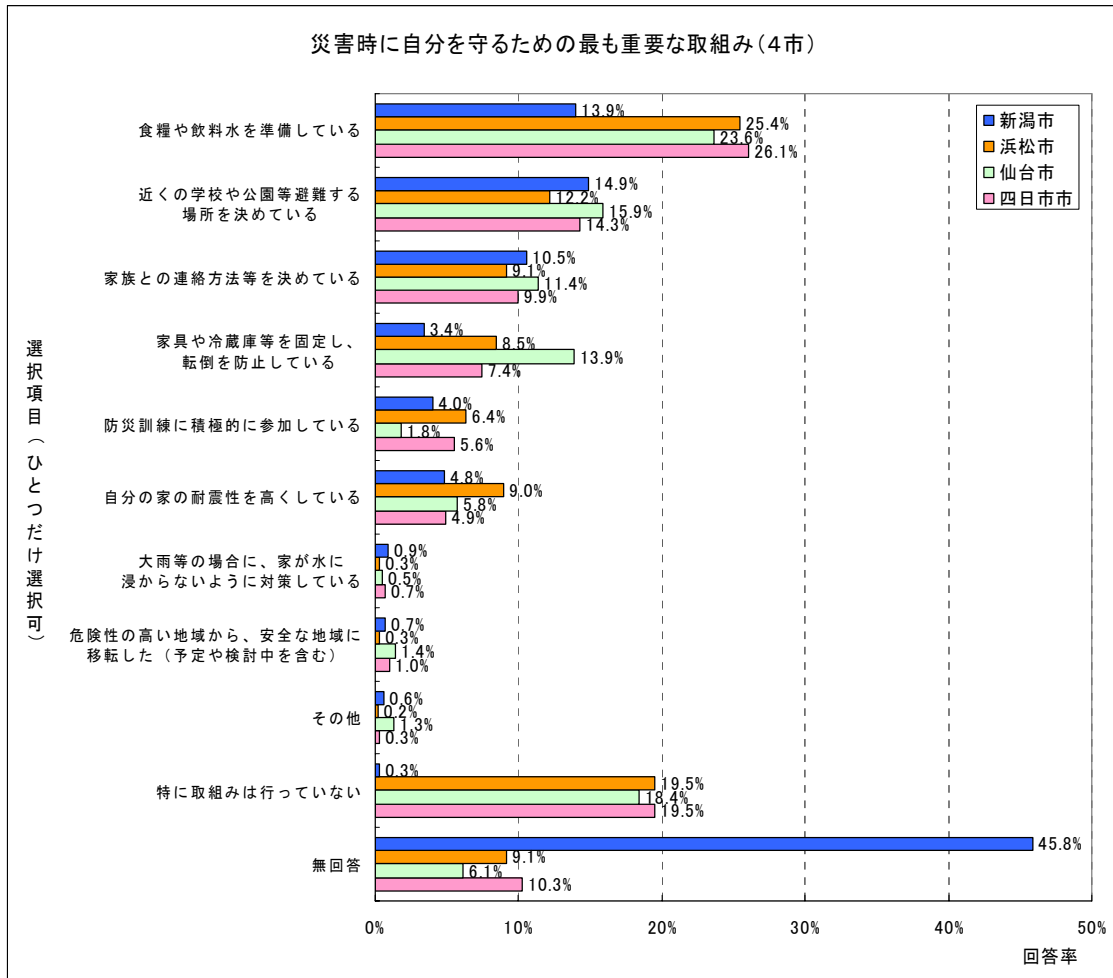


<アンケート結果に対する考察>

- ・自分を守るための取組みの内容は、「食糧や飲料水の準備」や「避難場所の決定」など、避難行動に関するものが多い傾向がある。
- ・仙台市・浜松市で、地震対策に関する取組みの割合が高いことは、宮城県沖地震や東海・東南海地震に対する意識の高さが要因となっていると想定される。

問3-1. 【災害時に自分を守るための最も重要な取組み】（一つだけ回答）

- ・問3で選択された複数回答のうち、最も重要な取組みは、問3における回答の傾向と概ね同様の傾向を示している。

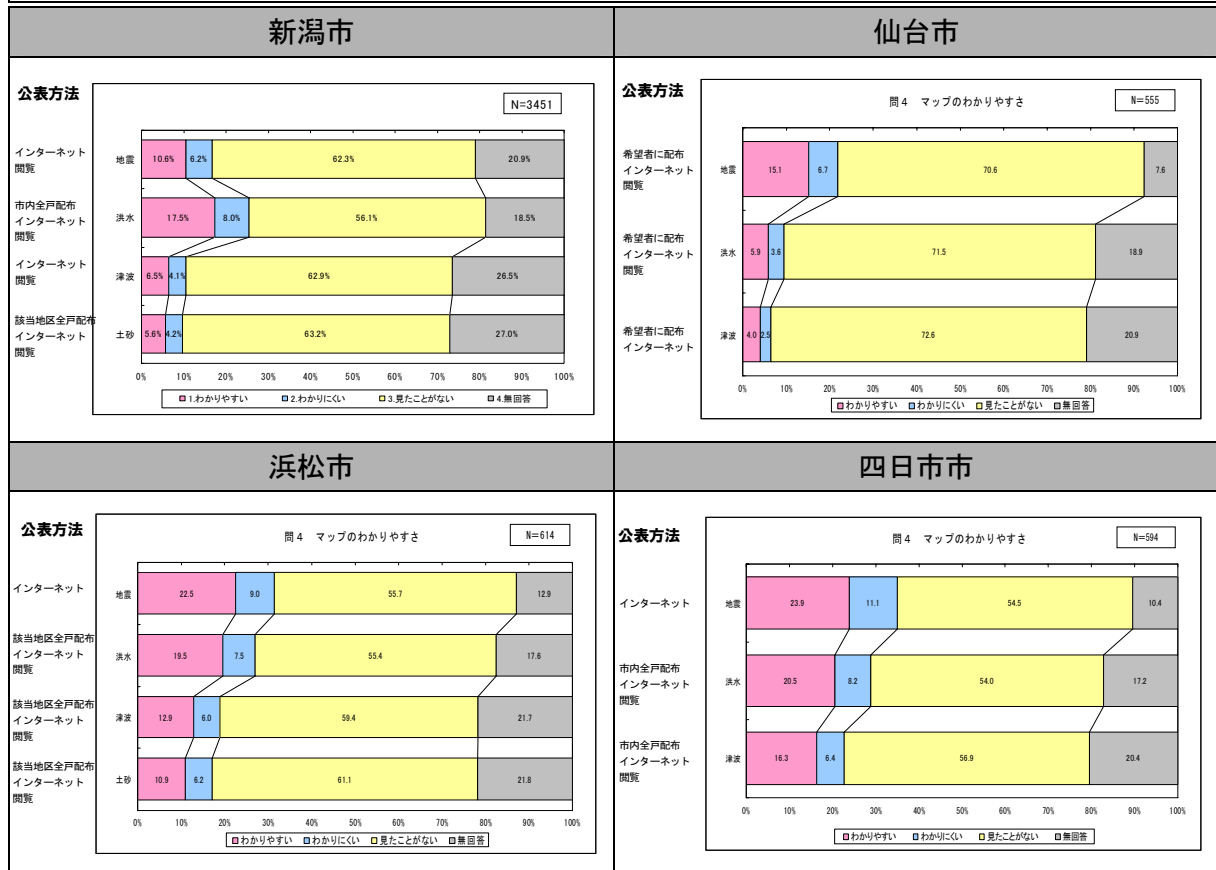


<アンケート結果に対する考察>

- ・問3と概ね同様の傾向を示していることから、各市民は、自分が現在行っている取組みを最も重要と考えて取り組んでいると想定される。

問4. 【マップのわかりやすさ】災害のハザードマップを見て、自分の地域が危険かどうかわかりやすいと思いますか？（複数回答可）

- ・全体として「マップを見たことがない」とする回答が最も多く、5～7割程度である。
- ・マップを見たことがある人（わかりやすい+わかりにくい）のうちでは、全てのハザードマップで「わかりやすい」とする回答が「わかりにくい」とする回答を上回っている。



<アンケート結果に対する考察>

- ・ハザードマップについて「見たことがない」とする回答が最も多く（50%～70%程度）、一層の周知が今後の課題である。
- ・「わかりやすい」+「わかりにくい」をハザードマップの認識度とすると、種別では地震の認識度が全体的に高い。原因として、地震はその他の災害に比べて全市民に被害が及ぶ可能性が高く、市民の関心・意識が高いことが考えられる。
- ・マップの内容が「わかりにくい」とする回答が各種別で30～50%程度あり、今後はよりわかりやすい情報として提供するための工夫が課題である。
- ・新潟市において、洪水ハザードマップの認識度が他のハザードマップと比較して高い。新潟市では、洪水ハザードマップについては、市内の全戸に配布しており、配布方法が認識度に影響している可能性が考えられる。